

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 八幡屋小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の八幡屋小学校の自己評価結果は、概ね妥当である。課題を改善するために、児童の実態に合わせた取組が工夫されて行われていることがわかる。取組内容について、指標を基に成果測定・評価を行い、その他資料等でも総合的に判断することができた。保護者・児童の学校アンケートの結果資料にも、学校が子どもたち一人ひとりをきめ細かく指導・支援した結果が表れている。子どもたちの主体性を育み、自己肯定感や学力を高めたり、保護者や地域の理解と協力を得て連携を深めたりしながら、教職員が一体となって目標に向け学校運営が行われている。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：①【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。**⇒ 94.6% (達成)**

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。**⇒ 91.5% (達成)**

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。**⇒ 87.7% (達成)**

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を100%以上にする。
⇒ 97.1% (未達成)

○達成状況としては妥当である。

○どの取組内容も目標を上回って達成できている。

○「学校の教育活動のアンケート」保護者アンケート及び児童アンケートの結果資料から、子どもたちが安心して安全に、きまりを守り、学校生活を楽しみながら送っていることを読み取ることができた。

○今年度は、創立 100 周年記念事業実施にあたり、記念式典、記念の品や記念誌づくり等、校内での取組と共に同窓会や地域、PTA との交流が多くもたらされた。児童アンケートの結果では、自己肯定感について高まりが見られ、ほぼ9割に近い児童が自己肯定感をもち生活できていた。学校行事の中で子どもたちが褒められ認められる場面が多く設定されることによって達成感・自己肯定感を味わうことができることがわかった。特色の一つである縦割り活動を通して、他学年との交流を深める中で、高学年、特に6年生はリーダーシップを発揮し、低学年は安心して学校生活を送る様子がよく分かった。

○保護者アンケートで、学校の取組の成果について肯定的に答える保護者の割合が高い。「学校は、教育活動の様子を学年だより・学校だより・ホームページ等でわかりやすく伝えている。」の肯定的な答える割合は 89%あり、学校だよりや保護者メール「ミマモルメ」、学校ホームページで子どもたちの近況、学校生活の様子、学校の取組について情報が発信され、学校現場の近況を知ることができているのが分かった。今後も、学校と保護者 PTA、地域が工夫しながら連携して、子どもたちを温かく見守り協力していきたい。

年度目標：②【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1 ポイント** 向上させる。⇒ **1. 5↑(達成)**

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を **75%以上** にする。⇒ **89.3% (達成)**

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を **80%以上** にする。⇒ **86.3% (達成)**

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **70%以上** にする。

⇒ **93.2% (達成)**

○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を **80%以上** にする。⇒ **88.2% (達成)**

○達成状況としては妥当である。

○算数科の研究 3 年目、今年度の研究主題は『確かな基礎・基本の学力に基づく「学びに向かう力」を高める指導法の工夫～算数科における主体的・対話的で深い学びの追求～』として、研究を進め、これまでの取組が徐々に定着し、子どもの学力向上につながっていることが、調査結果にも表れていることが分かった。

○少人数指導、放課後指導により、基礎的な学力の定着が図られていることが分かった。引き続き、子どもたちの読み取る力を高める指導の工夫を続けてほしい。今後も十分な準備と計画を行い、子どもたちの意欲を高めることのできる取組を続け、結果に結び付けていってほしい。

○アンケート等の結果から、「話し合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることもできるようになること」が大切で、「いろいろな機会を通して運動し、楽しいと思える子どもが増えていること」が取組を進めた成果として体力向上に結び付いていることがわかった。

○「早寝早起き」や「朝ご飯を毎日食べる」のアンケート結果から、地域の家庭環境についても様子や課題を知ることができた。早寝早起き、朝ごはんの習慣が定着するよう啓発していく。

年度目標：③【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の **70%以上** にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] ⇒ **達成**

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を **80%以上** にする。⇒ **達成**

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **70%以上** にする。⇒ **71.1% (達成)**

○達成状況としては妥当である。

○すべての取組で目標を上回って達成できている。

○これからを生きる子どもたちにとっての必須ツールである ICT 情報端末の活用は充実し、成果をあげることができていることが分かった。

○教職員のみなさんの負担は多いように思う。改善を続けていく必要がある。働き方改革が進められ、時間外勤務時間も軽減されているようだ。学校行事等の弾力的な運用について賛同する。

○今後も ICT の効果的な活用を図り、同時に働き方改革も進めながら必要な支援を続けてほしい。

○学校図書館の環境整備、充実を引き続き行ってほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 創立 100 周年記念事業を無事終えることができた。終業式や始業式の弾力的な運用内容について理解した。今後も学校と連携して、子どもたちのために地域としても協力したいという意見をいただいた。
- 子どもたちは柔軟に「新しい生活様式」に対応し、たくましく成長していることが分かった。
- 少人数のメリットを生かして今後も細やかに特色のある教育活動を展開してほしい。これからも、体験的な活動や子どもが想像力を生かせるような取組を大切にしてほしい。
- 家庭学習の実態や多文化共生の状況も踏まえ、今後も、必要な支援を続けてほしいと意見をいただいた。
- 基礎となる体力づくりを重視し、授業だけではなく、休み時間の遊び方、遊具の整備等、子どもたちの体力・運動能力を高める工夫を今後も推進してほしい。
- 八幡屋小、池島小、港晴小の 3 校合併を迎える今後を見据え、積極的に学校と連携して、子どもたちを温かく見守りながら地域としても協力していきたい。大人も子どもも、元気よくあいさつを交わす所から交流を深めていきたい。
- 学校協議会委員は、今後も学校を支援していく。学校・保護者・地域が一体となる取組を、今後も維持していってほしい。